北海道医歌人会詠草

雪景

士別　竹内（たけうち）　幹夫（みきお）

樺並木屋根の高さで頸斬られ　つらさを隠す雪希（こひね）ふ
「雪跳ねは　息子に任せて　あるからね」令息疾うに喜寿を過ぎしが
街灯に舞ふ雪影も柔らかに行く人々の頬安らけし
まぶた打つ雪の痛みをゆく歳の吉事と数え雪ひたに掻く
雪うさぎ雪原に跳ぶを見下ろして天聳（あまそそ）りたつ華フラクタル

紀寿の母

滝川　村田（むらた）　英俊（ひでとし）

鍵っ子と呼ばれし頃は怒られず働く母に甘えし子供
百歳の母の一生幸せか夫（つま）に怒鳴られ子には叱られ
百歳の二本しかない母の手に千手観音の名残りはあらず
施設にてベッド一つの六畳間かあさん人に世話をされてる
訪ねてももう息子とはわからない見知らぬ男にただ笑うだけ

カリンズ

札幌　浜島（はまじま）　泉（いずみ）

カリンズの己がなせしジャムを食ふ　自ら食（は）めぬ友のこと識る
朝散歩帰りのバスに乗る時し　汗の下着に冷房刺さる
アキアカネ飛ぶ　公園のブランコとサンゴミズキの白き実の上
白じろと下弦の月が　公園のシダレヤナギの上渡りゆく
あでにとは言はず色づくアロニアの　急ぎ朝（あした）に散りつを惜しむ

加齢

釧路　児玉（こだま）　昌彦（まさひこ）

老妻ののろき動作にいらだつは我また同じ動きなれこそ
齢とればあちこち故障は当り前その限界が死ぬということ
この齢だ、好きなことだけやらせてと言いつつ励むリハビリテーション
息子らの腕にすがりて初詣で、おみくじ安堵の「末吉」と出る
終焉の近付く齢を見すえつつ究めんとする人生の意味

選挙（二）

北広島　古屋雅三知（ふるやまさみち）

得る票が握手の数とは過去のことSNSのアクセスとなる
減税と手取りアップを謳えどもその財源は黙して語らず
ポピュリズム　NETを駆使し人集め祭りさながら　渋谷駅前
新党の立ち上げ宣言行えど政見・政策実体見えず（石丸新党）
去りし年は何を世界に残せしや　MAGAの嵐とChaos（カオス）の始まり

雪の毬

函館　水関（みずせき）　清（きよし）

夜を徹し矢を射通せる　大矢数　当たれわが人生の夢の的
薄闇の中で溶け合ふ　言葉たち　睫毛に凍る夜の露天風呂
啄木も賢治も乗りし　函館線　積み重なりし歴史の厚み
倶知安と伊達への鉄路一望の　陸橋毀つ　札幌延伸
犬の背に並びて弾む　雪の毬　雪原駆ける影引き連れて